

第 10 講 戦間期の欧米諸国の動向～第二次世界大戦

① 【3箇所訂正】

1920年代のアメリカは民主党全盛期で、孤立主義外交をとったため、不戦条約に調印しなかった。また、社会面では、ワスプの形成、移民の促進、女性参政権の付与、自動車・ラジオの普及などがあった。

② 戦間期のイギリス・フランスの内政・外政について、正しいものを1つ選べ。

- ①ロイド＝ジョージは、イギリス初の労働党内閣の首相となった。
- ②アイルランドは、イギリスの直轄領となり、その名称をエールに変えた。
- ③フランスは、オランダを誘って、ルール占領を行った。
- ④英仏共に、世界恐慌対策として、ブロック経済が敷き、対外的に保護貿易を取った。

③ 1930年代の出来事について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから1つ選べ。

- ①ソ連はドイツと独ソ不可侵条約を結び、英仏との戦争に備えた。
- ②ドイツでは、シュトレゼマン首相が Rentenmark 紙幣を発行、大インフレを収束させた。
- ③イタリアでは、ムッソリーニがファシスト政権を樹立し、ローマ進軍を行った。
- ④アメリカ合衆国では、フランクリン＝ローズヴェルトがニューディール政策を展開した。

④ ヒトラーの内政に関する用語を年代順に並べなさい。

- ①フューラー就任 ②ミュンヘン一揆 ③ヒトラー内閣成立 ④再軍備宣言

⑤ スペイン内戦(1936～1939)について述べた次の文①～④のうちから、正しいものを1つ選べ。

- ①ファシズムに反対する多くの文化人が国際義勇軍に参加した。
- ②イギリスとフランスは積極的に人民戦線を支援した。
- ③ソ連はナチスとの緊張を避けようと、中立の立場をとった。
- ④人民戦線はフランコ将軍に指導されていた。

⑥ ヒトラーによる侵略戦争の各段階を示した順番として正しいものを1つ選べ。

- ①オーストリア併合 — ダンケルクの戦い — ミュンヘン会談 — ポーランド侵攻
- ②ラインラント進駐 — ミュンヘン会談 — ポーランド侵攻 — ダンケルクの戦い
- ③オーストリア併合 — ポーランド侵攻 — ラインラント進駐 — ダンケルクの戦い
- ④ラインラント進駐 — ダンケルクの戦い — オーストリア併合 — ミュンヘン会談

⑦ 【3箇所訂正】

イギリス首相チャーチルは、ミュンヘン会談の際、宥和政策で臨んでナチスの要求を認めた。一方で、ソ連のスターリンと当事国オーストリアは、シュレジエン地方処理のために開かれたこの会談への参加を認められなかった。

⑧ 次の人物とその関係用語との組み合わせとして、正しいものを1つ選べ。

①ブリアン — フランス人民戦線内閣

②ピウスツキー — ハンガリー独裁者

③ムツソリーニ — リビア併合

④フーヴァー — 賠償金1年間支払い猶予

⑨ ドイツの賠償金問題について、次の短文から正しいものを1つ選びなさい。

①ドーズ案がきっかけでルール占領が起こった

②31年に世界恐慌の影響で破棄された

③ヤング案で賠償金額は増えた

④ヴェルサイユ条約で賠償金は認定された

⑩ パリ陥落した時のフランスはどうなったか？

①北にヴィシー政府ができた。

②北はナチスの占領下に置かれた。

③南にド＝ゴールの自由フランス政府ができた。

④南は反ドイツ政府が維持できた。